

出土遺物について

石室内からは、鉄鏃（鉄製の矢じり）や刀子（小刀）をはじめとする鉄製品、須恵器などの遺物が出土しました。これらの遺物の様相から三月野3号墳は、6世紀後半ごろに造られたと考えられます。また、時期の違う須恵器が石室内から出土しているため、追葬が行われたと考えられます。おそらく、最初の被葬者の家族が埋葬されたのではないのでしょうか。



鉄製品出土状況



須恵器出土状況

まとめ

三月野3号墳は、出土した遺物や石室の構造から、古墳時代後期（6世紀後半）のものであることが明らかになりました。古墳は、横穴式石室、墳丘、外護列石を含めて、形状をよくとどめていました。石室内には敷石があり、また、石を用いて閉塞した状況もよく分かり、全体的に丁寧に造られた古墳といえます。

古墳の規模、出土した遺物から、埋葬された人物は、王権の直接支配を受けた有力家長（民衆の上層）の可能性が高いです。また、追葬を行っており、最初の被葬者の家族が埋葬されたと考えられます。

今回の調査成果から、養父市、但馬地域における古墳時代の地域社会や埋葬施設の様相、埋葬方法等を考える上で貴重な発見となりました。



石室内作業状況

みつきの 三月野3号墳の発掘調査成果

令和4年10月1日（土）

調査成果説明会資料

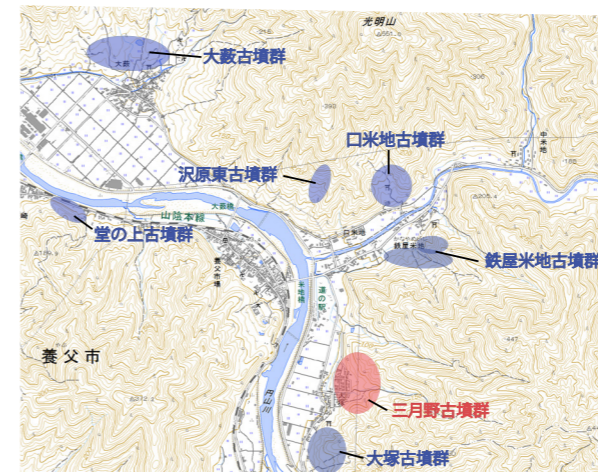


兵庫県教育委員会
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 (兵庫県立考古博物館内)
URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>

はじめに

三月野古墳群は、円山川東岸の丘陵尾根上に立地する、11基の古墳からなる古墳群です。発掘調査は、(砂)本郷谷川砂防えん堤工事に伴い、(公財)兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、7月から行っています。

三月野古墳群では、これまで旧養父町教育委員会によって、1・9～11号墳が調査されており、11号墳からは、白玉などの装身具や馬具の飾り金具が出土しています。今回の調査では、三月野3号墳を調査しました。



調査地点の位置



西上空から見た調査地点

石室について

三月野3号墳は、直径9～10mほどの円墳で、墳丘の裾部に崩れを防ぐための外護列石を巡らしています。埋葬施設は、横穴式石室であることが明らかになりました。

横穴式石室は、全長6.0m、最大幅1.4m、最大高さ1.9mで、天井石まで現存する非常に残りの良い状態で見つかりました。石室は、右片袖式のもので、天井近くになるほど石室内の幅が狭くなる「持ち送り」という方法で石が積みまれています。また、床には一面に敷石がされています。

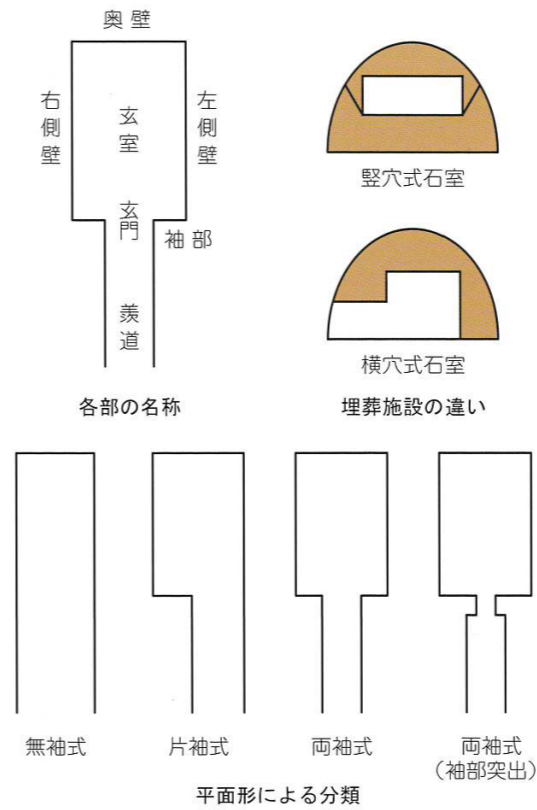
石室の入口にあたる羨道部^{せんだう}では、埋葬後に石室への入り口を閉じた石積^{へいそくせき}（閉塞石）が良好に残っていました。



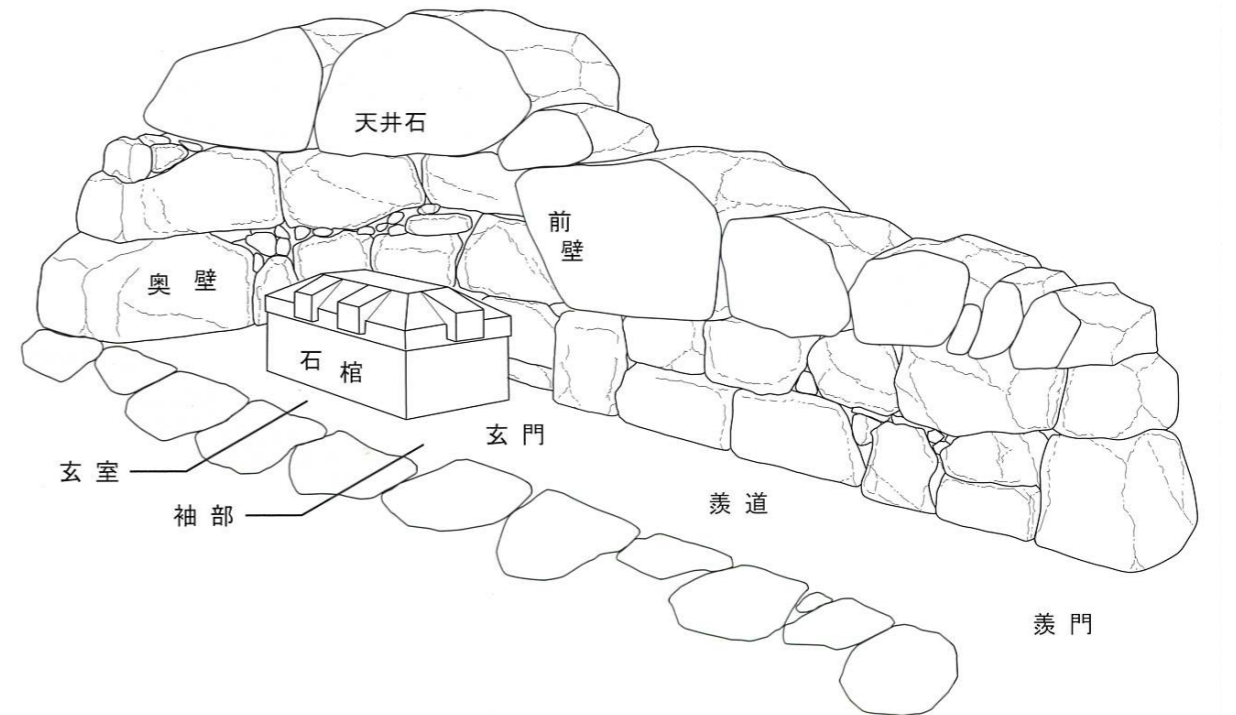
調査前状況（南東から）



調査状況（南東から）



羨道部閉塞石検出状況（南から）



石室模式図と各部名称

出典：大阪府近つ飛鳥博物館 2007『横穴石室誕生 黄泉国の成立』